

# 国語総合 漢詩の入門教材としての『詩経』「桃夭」

国語科 今 成 智 美

## 1. はじめに

本校国語科では学年ごとのテーマに沿って、古典（古文・漢文）を「時系列」に学習する授業を実施している。今回は1年生国語総合（漢文）において、漢詩の入門教材として、中国最古の詩集である『詩経』を扱った。授業では「桃夭」を中心に読みながら漢詩の源流である『詩経』に触れることを通して、古代の人々の姿を読み味わうとともに漢詩の変遷と展開を捉えるきっかけにしたいと考えた。

## 2. 国語総合（漢文）学習指導案（抄）

対象：1年蘭組 40名

単元：漢詩の学習 「桃夭」（『詩経』）（全6時間中の第1時）

### (1) 単元の目標

- ・漢詩に親しみ、伝統的な言語文化に対する関心を深める。（関心・意欲・態度）
- ・漢詩に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読む能力）
- ・漢詩の表現の特色について理解するとともに、漢詩の変遷と展開を時系列に捉える。（知識・理解）

### (2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①漢詩を内容や表現の特色に注意して積極的に読もうとしている。 ②漢詩に親しみ、伝統的な言語文化への興味関心を広げようとしている。	①漢詩に描かれた内容を、形式や表現の特色に即して読み取っている。 ②当時の人々の思いや考え方を読み味わうことにより、作品に対する理解を広げたり深めたりしている。	①漢詩のきまりや形式、押韻などの表現の特色について理解している。 ②漢詩の変遷と展開を時系列に理解している。

### (3) 単元の指導計画（全4時間＋2時間）

	学習内容
第1時（本時）	「桃夭」（『詩経』）
第2時	曹植「七歩詩」、陶淵明「責子」
第3時	李白「静夜思」、王維「送元二使安西」
第4時	杜甫「登岳陽楼」
第5・6時	中国古典詩と「音」（和田英信先生）

(4) 本時のねらい

- ・漢詩に親しみ、伝統的な言語文化への関心を深める。 (関心・意欲・態度)
- ・「桃夭」に描かれた内容を表現に即して読み取ることで詩に対する理解を深める。 (読む能力)
- ・中国最古の詩集『詩経』を読むことを通して、古代の詩の特色を理解する。 (知識・理解)

(5) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と [評価方法]
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を確認する。</li> <li>・『国語便覧』で年表を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習したことのある漢詩と漢詩の知識について問う。</li> <li>・中国最古の詩集『詩経』の詩について学ぶこと、漢詩を時系列に学習することを確認する。</li> </ul>	知識・理解 ① ② [発言・参加状況]
展開 I 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桃夭」を音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの音読、斉読、白文での音読など、繰り返し音読させる。 *繰り返し音読することで、詩のリズムや形式の特色に気付かせる。</li> </ul>	関心・意欲・態度 ① [観察・活動状況]
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桃夭」を読んで、気付いた点を挙げる。</li> <li>・「桃夭」の形式や表現の特色について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桃夭」を読んで気付いた点をノートに記入させる。</li> <li>・どのような特色に気付いたか、発表させる。 *四言四句ずつ三章からなる詩の構成や、表現の「変化」に気付かせる。</li> </ul>	関心・意欲・態度 ① 知識・理解 ① [ノート] [発言・参加状況]
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一章第四句の「室家」が、第二章第四句では「家室」となっているのはなぜか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・押韻のために語順が入れ替わっていることに気付かせる。 *随時生徒に意見を求め、意見が出ない場合は生徒同士の話し合いの時間を設けるなどして、一方的な授業とならないよう配慮する。</li> </ul>	関心・意欲・態度 ① 読む能力 ① 知識・理解 ① [発言・参加状況]

<p>展 開 Ⅱ 2 0 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この詩の「桃」とは何を表しているか考える。</li> <li>・この詩で「華」「実」「葉」がたとえているものは何か考える。</li> <li>・主題を理解した上で、あらためて全体を音読する。</li> <li>・『詩経』の他の詩を読む。</li> <li>・中国最古の詩集『詩経』に対する理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桃」がたとえているものを考えさせる。 *意見が出ない場合は、「之子于帰」などをヒントに発言を促す。</li> <li>・単純な繰り返しの中に変化を持たせることで、内容を展開させている点をつかませる。</li> <li>・この詩の主題を簡潔にまとめる。</li> <li>・古代中国の人にとっての「桃」とはどのようなものか説明を加える。</li> <li>・『詩経』の特徴について確認する。</li> <li>・特定の作者がないこと、人々の生活に根ざした素朴な思いがうたわれたものであることを確認する。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度 ① 読む能力 ① [発言・参加状況]</p> <p>関心・意欲・態度 ① ② 読む能力 ① ② 知識・理解 ① [発言・参加状況]</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> <li>・次時の学習を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返る。</li> <li>・時代の流れと詩の変化について意識させ、次時につなげる。</li> </ul>	

\*本授業の詳細な取り組みについては、研究紀要本号に論考として記した。

### 3. 研究協議

研究協議では、他校の先生方から多くのご指摘をいただくとともに、他校の授業の取り組みなどもうかがうことができ、大変充実したものとなった。また、お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化コースの和田英信先生にもお越しいただき、漢詩の専門的な部分に関して助言をいただくことができた。

本時の授業では生徒が活発に発言していたこともあり、多くの先生方から生徒の「主体的活動」を中心とした授業のあり方や、時系列に学ぶ中で気づき促す授業の取り組みについて概ね好意的にご理解いただけたと思う。また、国語総合の教科書に古詩の掲載がないため1年次で扱うことが難しい点や、多読による定着や読解力向上の度合いについてご意見をいただいた。高等学校3年間を通してみると、多読による読解力向上はあると考えるが、今後さらに生徒同士の活動や話し合いによって生徒の力を伸ばす指導の工夫について検証していきたいと考える。